



グーグル「GMAIL」がAI機能を段階的に強化、ユーザーは慎重に対応すべきだ

22161241山口翔矢

概要

- グーグルは最新の更新について、「ユーザーにデータに関する選択肢とコントロールをこれまで以上に提供し、当社の基本的なデータ取り扱いの実務や強固なプライバシーへのコミットメントを変更するものではありません」と説明している。GmailのAI機能やスマート機能を使い続けて自分のメールや添付ファイルへのアクセスを認めるのか、または設定を変えてデータ利用を制限するのかを慎重に判断する必要がある。

反対派の意見

- エンジニアのデビッド・ジョーンズはXにこう投稿した。「Gmailを使っているすべての人への重要なメッセージ。あなたは自動的に『オプトイン』され、Gmailがあなたの私的なメッセージや添付ファイルすべてにアクセスしてAIモデルの学習に使うことを許可しています。設定メニューの2カ所でスマート機能を手動でオフにする必要があります。周知のためにリツイートしてください」。

AIへのデータ提供はリスクを検討すべき

- 私たちユーザーは、こうした状況や選択に慣れておくべきだ。グーグルはAIのアップグレードを加速し、他の企業、例えばマイクロソフトもWindowsをエージェント型AIのハブへと変えるという議論を呼ぶ戦略を認めている。今や、提供されるアップグレードを安易に使う前に立ち止まって考える必要がある。少なくとも、自分のデータへのアクセスを許容することを意識して決断を下すべきであり、いったん始まった場合のリスクを検討したい。

コメント

- 米国のプライバシー規制派には一定過激な方もいるが、メールに関しては想像以上にプライバシーに触れる要素が多いので気にした方が良い。
- 予約完了メールや購入完了メールなど、日常生活が丸わかりになる要素が多い。

感想

- GOOGLE側もAIの精度を上げるためにもある程度サンプルが必要なことは理解できるがプライバシーの配慮には少しかけているように感じた。